

6年 わたしの地図活用

いつでも使う 続いて使う 歴史学習のなかの地図帳

滋賀県 近江八幡市立北里小学校 甲津 晃弘

1 地図帳を楽しむ子ども

私は、以前より社会科に限らず、学習・生活にかかわらず、地理的・歴史的・公民的な事からで気になることがあったら、「地図帳を見る子ども」を育てたいと授業のなかでくふうしてきた。また、朝の時間や、課題ができあがり時間の余裕があるとき、「ふと、地図帳を見たくなる子ども」がいる学級づくりをめざしてきた。今回は、いわゆる「地図帳を楽しむ子ども」を育てるためには、6年生の歴史学習のなかでどのように地図帳を身近なツールにするのかということを視点を授業例を紹介したい。

2 地図帳を肌身離さず活用する

6年生の地図帳の活用という前に、どのくらい実際に歴史学習で地図帳を見ているのかということをおもひ起こすと、自分の場合でもほかの担任に聞いても、あまり頻度が高いとはいえない。そこで、私は、まず、机の上やまわりに常時、地図帳をおいておくことを提唱している。通常の学習机であれば、左上すみに穴をあけ、ひもをつけ、机横のフックにかけておくのが有効である。今回、取りあげる「織田信長」についても安土城という言葉が出てくれば、すぐに地図帳を机上に



机横にかけた地図帳

出し、位置を確認できることになるからである。さらに、他教科や朝の教師の話などにも関連して地図に親しめることになる。「いつでも使う」につながる一つの手だてである。

3 3年間でオリジナル地図帳を

まず、授業やその他のことで見つけた「地名」や「言葉」などは赤丸を直接地図帳につけていく。今回の学習であれば、例えば、「安土城跡」「桶狭間の戦い」などである。また、関連した事から大事だと思うことは、あいている所まで引出線を引き、「織田信長、今川氏を破る」などという具合に赤字で書き込む。もちろん、4年生のときからこのような習慣づけをしていくことが重要である。そうすれば、学習の足跡が地図帳でわかることになり、「わたしのオリジナル地図帳」が完成する。



赤丸をつけた地図帳の例

4 年表と地図帳のリンクした授業

室町時代末期から江戸時代の終わりという武士による天下統一の大単元の始まりは、戦国時代・安土桃山時代である。その導入に学習するのは、「織田信長」である。教科書にはおおよそ、当時の略年表が示されている。それらを参考におおむね次の歴史的な事象を示した大型年表をまず提示する。

■織田信長の一生

1534年	尾張の国で生まれる。
1560年	桶狭間の戦いで今川氏（駿河）を破る。
1562年	徳川家康と同盟を結ぶ。
1567年	本拠地を岐阜に移す。
1570年	姉川の合戦で浅井・朝倉連合軍を破る。
1571年	延暦寺を焼き打ちする。
1573年	室町幕府をほろぼす。
1575年	長篠の戦いで武田氏を破る。
1576年	安土城を築き、移り住む。
1580年	石山本願寺を破る。 安土にセミナリヨができる。
1582年	本能寺で明智光秀におそわれ、自ら命をたつ。

そこで、まず、子どもたちは、生まれた場所に注目する。「尾張」ってどこ？と疑問をもったところで、地図帳で調べてみようという指示を出す。歴史に詳しい子どもが愛知県などということになるが、それはどこからわかるかと発問すると次の反応が返ってくる。

- ・さくいんで調べると、尾張旭という地名があります。
- ・p.69の日本の歴史の「②むかしの境界」に尾張があって、今の愛知県あたりです。

この発言をきっかけに、地図帳p.69-70を全員で見つめる。「②むかしの境界」では、尾張を見つげられるばかりでなく、駿河（静岡県）や近江（滋賀県）を探することができる。また、「③歴史の舞台になった場所」に目をやると、年表に出てくる「桶狭間の戦い」や「室町幕府」を見つげる子どもが出てくる。

ここで、今日の学習問題として「織田信長はどのようにして天下統一をめざしたのだろうか」を設定する。そして、年表のできごとと関係のある場所を地図帳で探し、赤丸をしていく学習活動を展開する。地図帳は、p.27～32を活用する。この学習はペア学習として、

必要に応じて地図帳をつなげた状態で活動を進めていく。その後、「地図の赤丸からどんなことがいえるか」話し合う。

そうすると、次のような発言が引き出せる。

- ・中部からしだいに近畿に力をのばしていったことがわかります。
- ・20年くらいの短い間にかなり広く支配していったと思います。
- ・幕府のあった京都に近づいていったのかなと思います。

5 地図から信長の思いに迫る

話し合いが終わったところで、安土城跡の立地を考えてみる。地図帳のp.30でまず、安土城跡を確認し、「なぜ、信長は安土に城を築いたんだろう」と問う。ここでは、グループでの話し合いをしきり、それぞれ地図を根拠に自分の意見を出し合うように助言する。この話し合いでは、次の意見を聞くことができる。

- ・京都に近いけれど、少し離れているので自由にいろんなことがしやすいと思います。
- ・琵琶湖があるので船で移動がしやすいと思います。

この発表を受けて、信長の安土で行ったこと（楽市・楽座やキリスト教保護など）や堺の支配について調べていき、次の秀吉の時代の学習へと発展させていく。

6 おわりに

地図帳を普段の授業に使っていると、子どもが授業の展開に合わせて自然と地図を開くようになってくる。そうなれば、問題解決的な学習は子どもの動きや学びをヒントに組み立てていくことができる。まさに、地図帳は主体的な学習の触媒である。